

## 第54回新潟大腸肛門病研究会

日時 平成16年12月11日(土)  
午後3時～5時35分  
会場 新潟グランドホテル  
5階 常磐の間

## I. 一般演題

## 1 続発性アミロイドーシスとサイトメガロウィルス感染を合併したNSAIDs起因性腸炎の1例

須田 和敬・須田 武保・高久 秀哉  
牧野 成人・本間 英之・大竹 雅広  
味岡 洋一\*

日本歯科大学新潟歯学部外科  
新潟大学大学院分子・病態病理学分野\*

症例は87歳,女性。

【家族歴】特記事項なし。

【既往歴】慢性関節リウマチの疼痛に対しNSAIDs製剤を使用。

【現病歴】下血・腹満を主訴に当院内科緊急入院。CT上多量のフリーエアを認め、消化管穿孔による汎発性腹膜炎の診断で当科転科し緊急手術施行。術中所見では結腸、直腸に5カ所の穿孔を認め、左半結腸切除、人工肛門造設術を施行した。病理学的検索では続発性アミロイドーシスとサイトメガロウィルス感染を合併したNSAIDs起因性腸炎が最も疑われた。

NSAIDs長期使用例では、本症例の様な病態を常に念頭に置く必要があると思われた。

## 2 腸重積をきたし肛門外に脱出したS状結腸癌の1例

清水 大喜・外山 美沙・小海 秀央  
矢島 和人・桑原 明史・谷 達夫  
飯合 恒夫・岡本 春彦・畠山 勝義  
新潟大学大学院消化器・一般外科学分野

## 3 当科における直腸脱に対する術式選択

野上 仁・松尾 仁之・小林 孝  
新潟臨港総合病院外科

【はじめに】当科における直腸脱の治療成績と手術術式の選択を紹介する。

【対象】2000年から2004年までの5年間に当科で直腸脱手術を受けた22例(男性7人,女性15人)。

【結果】手術回数は全部で25回。平均年齢は73.12歳。観察期間は14.04ヶ月。術式はGant-三輪, Thiershe法が15回, Delorme法が5回, Altemeier法が2回, Wells法が3回。Gant-三輪, Thiershe法の再発は15例中6例, 40%。そのうち再手術を受けたのは3例, 20%であった。Delorme法, Altemeier法, Wells法では再発を認めなかった。

【術式選択】当科では初発例にはDelorme法, 再発例にはWells法を基本方針としている。脱出長が長く, 腫大の強いものにはAltemeier法を, 全身状態不良例にはGant-三輪, Thiershe法を選択している。

## 4 下部進行直腸癌に対する側方郭清の功罪について

丸山 聡・瀧井 康公・藪崎 裕  
土屋 嘉昭・佐藤 信昭・梨本 篤  
田中 乙雄・佐野 宗明

県立がんセンター新潟病院外科

1990年から2001年までに根治手術がなされたRb, Pの進行直腸癌(Dukes B, C)127例を対象とし, 側方郭清施行91例と非施行36例の周術期問題点と遠隔成績を比較検討した。

【結果】背景因子として側方郭清施行群は非施行群と比べて年齢が若く, 腫瘍径が大きく, リンパ節転移が高度であるという有意な偏りがあった。手術時間は郭清群で有意に長かった。術後合併症は郭清群で有意に多く認めた。5年生存率(5YDRS)は郭清群73.8%, 非郭清群65.7%で, 有意差はなかった。Dukes Bの5YDRSは郭清群96.9%, 非郭清群77.1%で, 郭清群で良好であっ